

東日本大震災  
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2019.11.11

Vol.

43

November, 2019

ナウイズ  
毎月11日発行

# NOW IS.

in  
気仙沼  
大島

石崎ひゅーい



ただ復興するだけじゃない。  
大切なものを守る強さがあった。



# NOW IS. 対談 in 沼島 大仙気

Talk Session

KESENNUMA Oshima

## 「わけざかな」、「自給自足」、「大島時間」。 便利になっても 変えたくない大切なもの。

2019年4月7日。本土と離島・大島を結ぶ気仙沼大島大橋、愛称・鶴亀大橋が開通しました。それまではフェリーで行き来できなかった大島。生活の利便性の向上や救急医療の確保、観光客の増加など、さまざまな効果が期待されます。そんななか7月26日にオープンしたのが、集客施設「野杜海（のどか）」です。今回は、代表の小山春幸さんを、シンガーソングライター石崎ひゅーいさんが訪ねました。

変わっていく景色  
変わらない大島の文化

石崎ひゅーいさん（以下石崎）「海が目の前で、山が見えて、「野杜海」はいい場所にありますね。小山春幸さん（以下小山）「実はここ、防潮堤の上なんです。震災後、津波から地域を守るために防潮堤をつくるとなった時、海と陸との間に壁をつくる計画が示された。そうではなく、どうにか海とつながった空間にしたいと考え、傾斜型の防潮堤を土で覆い一帯をかさ上げして、

Ishizaki Huwei

## 石崎ひゅーい

いしざきひゅーい

PROFILE

1984年生まれ、茨城県水戸市出身。2012年にシンガーソングライターとしてメジャーデビュー。各地でツアーを行うとともに、テレビドラマやアニメ、映画などのテーマ曲も数多く発表。2019年には役者として映画出演するなど、活動の幅を広げている。

公園のような場所を提案したのです。そして、今そこに「野杜海」があるんです。石崎「景観も集客施設も両立させたんですね。そういう場所が地域を守っている...。小山「そうですね。大島の活性化の拠点にしたいと思っています。大島は、高齢化率が50%以上になっています。子どもも少なく、人口は確実に減っていく。だからこそ、ここを地域の活力と文化を維持できるようなコミュニティにしたいと思っています。

たとえば、大島には「わけざかな」って風習があるんですよ。石崎「わけざかな？

小山「大島はもともと、半農半漁で暮らしてきました。漁に出て魚を取っていると、市場に出荷できないような魚を近所の家々の玄関にぶら下げておくんです。マグロのブロックが括り付けたあることもある（笑）。特に何を言うでもなく分け合っている。これが「わけざかな」。石崎「へえ！東京でやったら審査物だと思われる。小山「大根とか、野菜も同じよ

うにして玄関先に置いて来たりするんですよ。支え合う生活。「こ近助」です。石崎「うらやましいですね、そういうの。都会には、そういう文化がないから、若い人は新鮮に感じるんじゃないでしょうか。小山「橋が架かって、生活が変わっていくだろうが、大島ならではのよさを残し、伝えなければと思っています。この飲食店で使っている魚や野菜は、ほぼ100%大島でとれたものです。島の方々が「野杜海」に卸して、それを食として提供する

地産地消です。海や畑でがんばっているお年寄りの生きがいにもつながる、ヒトとモノの循環です。石崎「自給自足みたいですね。先日、『そののレストラン』という北海道の映画に出演したんですが、そこで描かれていたのも、自給自足の風景でした。小山「実際、島内では7割くらいが自給自足なんです。島ゆえのスタイルといえます。また、「大島時間」っていう独特の時間感覚もあります。漁がある朝5時とかに、普通に電

話して来て魚を卸す。石崎「5時！寝てますね。小山「いい意味で、マイペースです。そんな時間を過ごしてほしいから「野杜海（のどか）」という名前を付けました。橋が架かって便利になった。観光客も若い人も増えていくといいと思う。でもその一方で、あえて変えないもの、ずっと残っていくものがあつたらいいと思うんです。そういう大島ならではの文化や空気を感じられる場にしたいですね。

Oyama Haruyuki

## 小山春幸

おやまはるゆき

PROFILE

1958年生まれ、気仙沼大島出身。中学校の教員を経て、合同会社野杜海の代表。野杜海にある「青と緑の茶やHARU」の店主も務める。



大島の文化や空気を  
長くつなげる集客施設に。



活躍する応援職員

# SUPPORT POWER



2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震。宮城県警察では同日、45名の広域緊急援助隊を北海道へ派遣しました。当時、広域緊急援助隊の隊長として現場を指揮していたのが遠藤さんです。

「広域緊急援助隊」は、1995年の阪神・淡路大震災を教訓に、災害対策の専門部隊として発足。都道府県警察すべてに設置され、災害時は、被災者の救出活動や被災情報の収集などを行います。

東日本大震災後は、「警察災害派遣隊」が組織され、発災直後に派遣される「即応部隊」、一定期間後に派遣される「一般部隊」に分けられ、災害対応の体制を強化。「広域緊急援助隊」は、即応部隊に編成されています。

「現地に到着後、北海道警察の指揮所で調整を図り、厚真町吉野地区、幌内地区の救援活動にあたりました。厚真町は、大規模な山林土砂災害が発生した地域。重機で土砂を取り除いていき、建物の一部や家財道具が出てきた際は、手作業で掘り進めます。「救助活動の効率化を図るため、現場にいる自衛隊や消防と連携をとります。現場では2次災害の恐



厚真町で各機関と連携しながら救助活動を行う様子。

## 被災者のために一刻も早く救援を

れもあるため、一般の方や報道陣の誘導や移動など、安全のための規制管理も行います」と遠藤さん。救助活動の現場では、災害後3日（72時間）が勝負といわれています。他機関と連携しながら3日間、全力で救助活動を行いました。

阪神・淡路大震災や有珠山の噴火、岩手・宮城内陸地震、西日本豪雨など、多くの救助活動を行ってきた遠藤さん。「広域緊急援助隊は、常に新しい救助技術を取り入れ、消防や自衛隊などの他機関や他県との合同訓練を行うなど、災害に備えて多種多様な訓練を行っています。いつも1番にあるのは「被災者（要救助者）のために」です」と遠藤さんは話してくれました。

## AREA information

### 9年ぶりの開催！ 第24回けせんぬま岩井崎荒磯まつり

東日本大震災の被害で中断されていましたが、9年ぶりに復活！地元の漁協や農協、水産加工業者などの出店が立ち並び、新鮮な牡蠣、野菜などを格安で販売。マグロの解体ショーや景品付き餅まきなども予定しています。

- 日時：11月23日（土・祝）9:00～14:00
- 会場：JFみやまきわめ流通センター（宮城県気仙沼市波路上瀬向75-91）
- 交通：三陸自動車道大谷海岸ICから車で約15分、東北自動車道一関ICから車で約90分
- ☎090-8256-9799 けせんぬま岩井崎荒磯まつり実行委員会（障上地域まちづくり振興協議会 熊谷）
- MAIL hashikamimachikyo@gmail.com



### ONE-LINE 気仙沼イルミネーション

「震災で真っ暗になったまちに希望の光を灯したい」と、震災後からスタートして今年で8回目。市内各所に色とりどりのLEDが灯り、街を明るく彩ります。

- 日時：12月7日（土）～翌13日（月・祝）18:00～22:00
- 会場：気仙沼市内各所（海の市、迎、八日町エリアほか）
- 交通：三陸自動車道気仙沼中央ICから車で約20分
- ☎0226-22-4560（気仙沼観光コンベンション協会）

復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

# 復興は音楽にも似ている。人間のパワーが動かすこと。



時折クイズを出しながら、楽しく案内する語り部の村上さんと。

ガイドツアーで触れる大島の人々の想い

「自分の音楽にも似ているところがあるような気がします」。野杜海（のどか）の小山さんと話し終え、石崎さんはほつりとそう言いました。「変わっていく部分と、守っていききたい部分って話。

メジャーデビューから7年経って、変わっていく、変わっていくな

あるんですが、その一方で、この景色はずっと守っていかないと、いけない、という部分も確実にあって、海が見える場所を守りたい、大島の文化を伝えたいという気持ちと、近いような気がします。

した。

飲食店やカフェが6店舗連なる「野杜海」。天気がいい日には海を望む芝生でランチタイムを過ごすこともできます。昼食で味わったのは、大島の魚介とハーブを使ったパスタ。「どのお店もおいしそう。ほかのメニューも食べてみたい」と石崎さん。

この日は語り部ツアーも体験しました。「大島で唯一の語り部になってしまいました」と話すのは「ガイドサークル潮彩」の村上まき子さん。観光客のほか修学旅行や社員研修などに向けて、「緑の真珠」と呼ばれる大島の美しさや自然環境、震災時の様子などをガイドしています。「震災の時、大島は全滅したと言われたんです。ほら、今も火災の跡が分かるでしょう」。亀山展望台から見える山肌を指さしながら、村上さんは言います。視線の先には、今も残る黒く炭化した木々。



「野杜海」の鮮魚店には、その日取れた大島の魚が。「サメがいる！」と石崎さん。

石崎さんは息をのみます。「津波に加えて、対岸から流れてきた火で火災が発生し、山が燃えたんです。私ももうだめかな、と思いました。その時島にいた中学生がとっても頑張った。自分たちがやらないといけないと協力して、消火活動を始めたんです」。内陸から孤立していた大島。親



亀山展望台からの眺望。石巻市や岩手県まで見渡せます。

と会えない子もいるなか、若い力が島の大人を励ました。「悲しい気持ちもあつただろうに、本当に一生懸命で。私たちが頑張らないと奮い立たされました」。「景色だけ見れば今はそんなこと思ってもいいけど……。聞いてみて初めて感じるものがありますね」と石崎さん。「中学生の活躍のエピソードや野杜海の想いを聞いて、すごく人間的なパワーを感じました。こういうパ



大島には、遠洋漁業で海難事故にあった人を追悼する石碑も。

## ここに注目！ NOW IS. EYE'S



ガイドサークル潮彩は、気仙沼大島の震災伝承をはじめ、大島の歴史や文化を紹介するツアーガイドです。展望スポット「亀山展望台」や復興を感じる海辺の様子などを軽快な語りで案内してくれます。

01 「震災復興ポスター」が完成しました!

宮城県の復興の「いま」をお伝えするとともに、復興の過程で得られた新たな“価値・教訓”を全国に発信するため、今もなお復興に向けて取り組む方々の姿を、その決意や想いとともに表したポスターを4種類作成しました。ポスターは全国の自治体や関係団体等に送付し、掲出していただく予定です。

震災の記憶の風化防止や防災・減災を目的とした掲出を行っていただける方には無料でご提供いたします。



02 宮城の復興状況をまとめた「宮城県震災復興パネル」をリニューアルしました!

震災復興ポスターの完成に伴い、宮城の復興状況をまとめた「宮城県震災復興パネル」をリニューアルしました! 防災等のイベントのほか、大勢の方にご覧いただける場所で展示いただける場合には無料で貸しします(送料は利用者負担)。全10枚のうち、枚数を限定した貸出しも受け付けていますので、是非ご検討ください。

- 仕様等
- サイズ:A1、枚数:10枚、
- 貸出料:無料、送料:利用者負担

ポスターとパネルの詳細は  
みやぎ復興情報ポータルサイト で検索

●県震災復興推進課 ☎022-211-2408



MEDIA INFORMATION



みやぎ復興情報ポータルサイトは  
こちらから!



https://www.fukkomiyaagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」をリニューアルしました! 復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を  
ブログで!

ブログピックアップ

宮城発!  
**元気と食の最新情報**

一般社団法人  
**IkiZen**

震災復興に軸足を置き、被災地企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

よあけのてがみ

東北復興支援として、東北の名産品をユニークなキャラクターにした「東北☆家族」を手掛けている「合同会社よあけのてがみ」。東北の魅力を海外にも伝えたいと、増加するインバウンドの受け皿として民泊事業も行っていきます。代表の塩坂桂子さんを取材しました。

SAMURAI JAPAN PROJECT  
宮城を世界へ

SAMURAI JAPAN PROJECT

真っ赤な甲冑を纏ったサムライが、日本の美しい景色や各地の文化をInstagramで世界に発信しています。現在、北海道から沖縄までキックボードで日本縦断中。

このブログは、SAMURAI JAPAN PROJECTと「NOW IS.」のコラボ企画。日本を縦断中に訪れた“宮城の今”を、みなさんと共有できたらと想いを綴ります。2回目は東松島。美しい田園風景が広がる道を進み、野蒜海岸へ。東松島で感じたサムライの想いをご紹介します。

「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS. 復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信! 復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地の「いま」を発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS. メールマガジン NOW IS. の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 NOW IS. メールマガジン で検索して登録!

取材  
こぼれ話  
**Voice**  
from  
STAFF

**ガイドサークル潮彩**

ガイドサークル潮彩の村上まき子さんは、2017年の震災復興ポスターにもご出演いただきました。生まれも育ちも大島の村上さん。東日本大震災で全国から集まったボランティアなどの応援に、「ありがとう」の気持ちを込めて、震災の記憶と大島の魅力を語っていらっしゃいます。大島を訪れた際は、ぜひガイドを活用してみてください。

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,565人 | 行方不明者数 1,220人 | 2019年9月30日現在宮城県危機対策課調べ

NOW IS.  
**防災**  
BOSAI FRONT LINE

PROFILE

株式会社  
ワンテール

東日本大震災をきっかけに設立したベンチャーカンパニーで、多賀城市を拠点に活動。6次産業の振興を目指した名取市の商業施設「ロクファームアタラタ」や、七ヶ浜のホテルリゾート「シチノリゾート」などの運営等を手掛ける。

株式会社ワンテールと宇宙航空研究開発機構(JAXA)が様々なパートナーと共に、「防災×宇宙」の視点から新たなプロジェクトを進めています。「LIFE STOCK」は将来的には、宇宙食としての展開も視野に入れています。被災地生まれの「LIFE STOCK」は備蓄食のイメージを覆す可能性を秘めていると言えるかもしれません。



東日本大震災直後、飲み水が十分でない環境のなか、避難所ではさまざまな備蓄食が配られました。乾パン、アルファ米、クラッカー、おにぎり。健康な大人にとっては問題のない食べ物ですが、飲み込む力が弱っている高齢者、重度の身体障がい者、アレルギーを持っている人にとっては摂取しにくいという問題がありました。

備蓄ゼリー「LIFE STOCK」。飲み込みやすいバランスタイプは水分量72%。カロリー控えめで、栄養バランスに配慮しています。エナジータイプは、バタバタしがちな避難生活でも短時間でエネルギーを摂取でき、さらに、小麦や卵など27品目のアレルギーを使用していないため、食物アレルギーの人も安心。また、備蓄食として長期間保存できるよう「賞味期限5年半」を実現しました。

check! 01

水がなくても  
飲み込みやすい  
備蓄食「LIFE STOCK」



おいしき、賞味期限、柔らかさ。妥協せずに試行錯誤を繰り返し、誕生したゼリーです。

これまでの備蓄食のイメージを  
覆す備蓄ゼリー。//////////

check! 02

公的避難所や介護施設からの問い合わせも続々。

「LIFE STOCK」を開発したのは、多賀城市を拠点に活動する株式会社ワンテール。震災直後の避難所の様子を見て、食べやすい備蓄食の必要性を感じたと言います。「自分で準備する備蓄食なら自分の好きなものを準備すればいいのですが、東日本大震災の津波のように持ち出せない状況になることもあります。だからこそ、公的避難所にできるだけでなく、口から食べるだけでなく、チューブで栄養を摂取している「胃ろう」などの経管栄養の人も摂取できた実績もあります。

味は「普通のゼリーのように、おいしいですよ」と下山さん。日常生活で慣れ親しんでいる味であることが、避難生活では特に大切なことだと考えているそうです。



食べた後はくるくる丸めて捨てられるので、避難所のゴミの減量にもつながります。

# みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や復興の道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。  
この地で生きる人々の想いととも、世界に発信していきます。



FILE  
No. 7

## 気仙沼大島 野杜海(のどか)

合同会社  
野杜海

芝生から海を眺めて  
「のどか」に過ごす

2019年7月、気仙沼大島大橋の開通に湧きたつ大島に、観光集客施設が新たにオープンしました。名前の由来は、のんびりした大島の雰囲気から「のどか」と命名。漢字で「野も杜も海もある美しい大島の様子」を表しています。

カフェやダイニング、鮮魚店やスーバーなど地元の事業者が運営する6店舗が入り、工夫を凝らしたランチやスイーツなどが楽しめます。料理に使われる食材は、島で収穫された野菜や島の漁師がとってきた魚介がほとんど。その時々「島の旬」を地元の人々の手料理で楽しめます。昔から大島に伝わってきた自給自足や譲り合いの文化を、身近に体験できるスポットができました。

2020年春には、産直施設や浦の浜湾に臨むテラス席、観光案内所などがそろう「気仙沼大島ウェルカム・ターミナル」もオープンする予定。大島観光の玄関口に完成するニュースポットに注目が集まります。



NOW IS. **43**

発行:2019年11月11日 宮城県震災復興本部(事務局:震災復興推進課)  
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

 宮城県  
Miyagi Prefectural Government